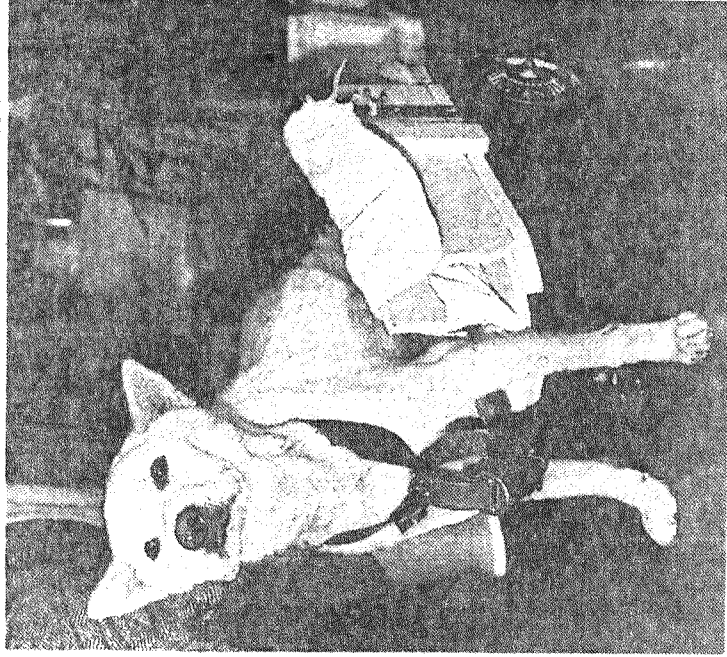


車いすをつけてもらい、動けるようになった
「チロ」
＝津市半田の岡本動物病院で



交通事故で後足2本の犬に車いす

津で獣医さんらが「チロ」を救った

「チロ、歩いてもらい」――津市内の交通事故に遭い、後足がまひし、獣医に保護された犬は十九日、手作りの車いすがつくせしめられた。獣医と顔見知りの女性らが贈ったもので、**「チロ」は女性の呼びかけに、一カ月ぶりに動き回った。**

津市半田で動物病院を経営する岡本俊博さんらのところに

「チロ」が運ばれたのは、先月二十四日。同市半田の国道沿いで、前足はついていたが、後足がまひしたままになっ

た。白の雑種で体長約七十センチ、体重二五キロ、一二歳の雌。赤い

首輪をしていて、応答もしたが、腰の骨が折れ、せき頸も二方所損傷して重傷。手術後も後足がまひしたままになっ

た。床ずれがひどく、安楽死を考えた岡本さんに、待つをかけ

たが、津市に住む鈴鹿市山田紀子さんと動物好きの

一時は安楽死も考えたが…

「生きる力は犬も同じ」

いて駆けつけた山腰さんは、懸命に前足を突っ張って歩こうとする「チロ」を見て、車いすを思いついた。

「人間をとおして犬に、どういふ人もいますが、生きようとする気持は、犬も人間も同じではないでしょうか」。山腰さん自身、交通事故で腕の骨折を患えながら、一匹の迷い犬と十数匹の猫の面倒を見て

いる。車いすは、鈴鹿市に住む知人の会社員が自働車で作ってくれた。子供の三輪車の後輪とすのこ板を二つを利用した木製。前部の小さな二つで方向転換もできる。

体毛が白いところから、山腰さんから「チロ」と呼ばれるようになったが、事故後一カ月経った今も創いまからの進歩はない。山腰さんは、育てたいのばやまだが、今のところはかの動物の世界で手いはい。「たれか面倒を見くれる人がいれば」と引き取り手を探している。

仲間。迷い犬を保護したり、捨て猫のもらい先を探すなど、地道な活動をしている。事故を

連絡先は津市半田山田二〇ノ四、岡本動物病院 〇五九二二二二〇〇二二。